

【奨励賞】

団体名	敦賀市中学校社会体験活動推進委員会
活動の内容（概要）	地域の公共機関および事業所と連携し、市内の全ての公立中学2年生の社会体験活動を16年間継続して支援している。生徒、教員、保護者、事業者が同じ目線に立ち、活動スローガンを共有し、基礎的・汎用的能力を実践的かつ総合的に育成する活動として推進している。

受賞理由

- 中学生の職場体験活動について、本委員会が市内の全中学校をサポートし、学校側と事業所側とを効率良く互恵的に結びつけている取組である。
- 11 団体と共同し16 年間継続してきた実績から、生徒が体験から学ぶだけではなく、職場への提案を行うなど、地域に貢献する市民としての役割も育成されている。また、卒業生が事業所の経営者として受入を行うなどの広がりも見せており、学校、市教委、地域・社会団体等がしっかりと連携した普及モデルとなる事例である。
- 形骸化を避けるための推進委員会の活動もシンプルで機能的なものであり、学校のニーズだけでなく地域のニーズも取り込み、状況に応じて変化させながら継続性が発揮できるベーシックな取組となっている。
- 1 年時は自己理解支援、2 年時が仕事理解、そして3 年時での意思決定としっかりキャリア教育が組み立てられている。特に、職場体験活動の事前研修と事業所への提案、活動報告書作成と能動的な職場体験活動となっているところが魅力である。
- 中学生が今後の人生を生き抜いていくために必要な能力を育てる観点が取組に盛り込まれており、大いに評価できる。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

敦賀市教育委員会、敦賀市中学校長会、敦賀市立中学校5校

【行政や地域・社会、産業界等】

敦賀市総務部、敦賀市産業経済部、敦賀市福祉保健部、ハローワーク敦賀、敦賀市PTA 联合会、敦賀商工会議所、公益社団法人敦賀青年会議所、福井県自動車販売店協会、一般社団法人福井県薬剤師会、敦賀建設業会、敦賀市立敦賀病院

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成14年～ 【継続年数】16年

敦賀市では、平成4年から10年間にわたり、敦賀市中学校長会主催による中学2年生の希望者を対象として「職場体験学習」を行ってきた。その後、全ての市内公立中学2年生に職場体験活動の場を提供したいと考え、平成14年度より本委員会を立ち上げ、敦賀市中学校長会と敦賀商工会議所が連携・協力して市内各事業所に中学生の受入を呼びかけた。これに市内154の公共機関及び事業所からの協力を得て、市内公立中学2年生全員対象とした「社会体験活動」が始まった。

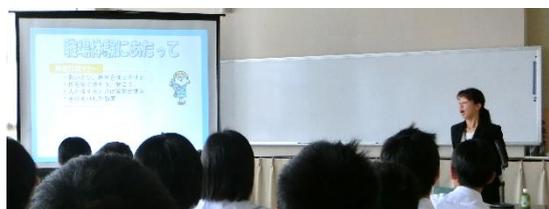
「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

100を超える事業所と活動の理念を共有するために、スローガン「きみと未来を探そう」を設けている。これは、本活動で求める基礎的・汎用的能力である「①協力する力」「②見つめる力」「③取り組む力」「④未来に向かう力」「⑤探し求める力」の5つの力の頭文字を合わせたものである。事務局より、活動受入依頼の際から、このスローガンを用いて本事業のねらいを事業所に伝え、全ての事業所においてねらいに沿った活動が実施できている。

活動日までは、学校と事業所の担当者と打合せを重ねている。ここでは、事業所ごとの特色ある活動を具体的に検討しており、「協働すること」「自己を見つめ直すこと」「試行錯誤すること」「社会への貢献」などについて、事業者の方が求める「生徒に直接語る機会の設定」へとつながっている。経験に基づくメッセージは生徒の心に届き、学校では学ぶことのできない貴重な機会となっている。

事業所側が求める、「目的意識」を持って体験活動に参加できるよう、事業者の方を講師に招いたり、生徒が事前に体験先について調べたり、質問事項を考えたりして、体験先についての理解を深めた上で、体験に臨んでいる。

また、事前学習として講師を招き「マナー講習会」を実施している。この講習会は、新入社員の研修として実際に行われている内容であり、あいさつの大切さを再認識するだけでなく、演習により実践力も身に付けることができている。



<事前学習「マナー講習会」の様子>

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

長期にわたり事業が運営できるよう、組織づくりと役割分担を整備している。市中学校長会の中に社会体験活動推進委員会を設置し、事務局校の校長を委員長とし、事務局1名、市内5中学校の運営委員各1名の計7名で推進委員会を構成している。

事業内容の充実のため、年間の運営計画も整えており、事務局校が中心となって計画立案、事後評価・分析、事業所との折衝等を行っている。4月、5月に各事業所との打合せ、1月には活動の評価・分析、および次年度の活動内容の検討、3月には次年度の活動協力を事業所に依頼している。活動後に生徒、事業所、教員アンケートを行い、活動内容の見直しを図っている。

また、他学年の生徒や他職種の事業所での学びの共有を図るため、活動の様子や参加生徒の感想等を活動報告書としてパンフレットにまとめている。

予算面においては、市地域教育コミュニティ推進研究事業として予算化し、保険や活動報告書作成、交通費等を市の予算より計上し、継続的な活動となっている。活動報告書には、生徒や保護者の感想および事業所からのアンケート等を掲載している。事業所にとっては、保護者が活動内容をどのように受け止めているかを知ることができる。また、事務局や学校にとっては、活動内容の課題を知ることができ、次年度の活動内容の改善につなげることができている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

地元産業に貢献し、ふるさとの発展に寄与する人材の育成は、地方創生の立場から本市にとっても重要な課題の一つであり、地元の事業所で実施する本事業には大きな意味がある。

本事業は、本市が進める3年間のキャリア教育の核に位置付けられている。1年時では自分の適性や職業の意義などを知り、2年時では本事業での職業体験や講義等から、働く意義等を体感する。さらに、3年時では、本事業で得た経験を生かし、修学旅行先で本市や地元特産物の紹介や製造、販売を行う。これらの学習を経て、卒業後の進路を決定する。

先述のスローガンの活用により、一貫性あるキャリア教育を実施している。職場での見学や事業者の方へのインタビュー取材および事業者の方を講師とした「ようこそ先輩」、将来の夢や目標を考える「ふくいの希望（福井県独自教材）」の学習等においても有効活用している。

敦賀青年会議所を中心に、市活性化のアイデアを若者に求める取組を実施している。受入事業所への提案は、地域社会への貢献のため、自らアイデアを提案し他者と協働する市民の育成につながっている。

また、多様な体験先を求める生徒のニーズに応えられるように、本委員会がイニシアチブを取ることで、全市の教員で協力しながら体験先と打合せを行っている。そのため、各々の中学校だけでは開拓しきれない幅広い業種の事業所で体験できている。



<NPOの指導による社会体験活動の様子>

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

16年間の活動成果を明示し、受入依頼時に本事業が「次世代の人材育成」につながる活動であることへの理解に努めている。活動開始当初は、154の事業所より受入協力を得られたが、地域産業の衰退により、一時2桁にまで落ち込んだ。そこで、この体験が契機となり職業選択した生徒のことなど、本活動が受入事業所にとって「次世代の人材育成」につながることを事務局より伝えたことで、敦賀の産業の活性化を模索する事業者など、平成29年度は市内全域より104の事業所の受入協力が得られた。本活動自体も人材育成を目指す体験的・実践的な内容へと変化した。

また、事業所に新たな取組や工夫を提案する能動的な活動を実施している。活動の最終日に、生徒は体験による学びを基にした提案を行い、事業所の方とセッションしている。今年度は、福祉関係の事業所で「レクリエーションでの飛行機飛ばし」や「七夕の短冊づくり」を提案した。また、保育園では「園児の高さに合わせた本棚」、小売店では「店内マップやエレベーターの設置」、博物館では「インスタグラムの活用」、新聞社では「記事をマンガや絵を使ってわかりやすく解説する」等の提案がなされた。これら中学生からの提案は意外性があり好評であった。生徒の活動の様子は地元マスコミにも取り上げられ、ニュース番組で県内に紹介された。番組を契機として、新たな受入の連絡が事務局まで来ている。

学校現場の評価・感想・コメント

- ・事前学習の講演を通して、「仕事」や「働く」ということに対する意識が高まった。
- ・事前学習の社会人マナー講習会は、講師の先生の確保に苦労したが、実施できて良かった。やはり、ゲストティーチャーの講習会は生徒の関心も高く、効果的だった。
- ・活動後に、活動場所での体験を話すスピーチの会をしたのはよかった。その職を体験したからこそ分かることを知らない仲間に伝えることで、どちら側にもプラスになった。
- ・報道と写真のスライドショーを活動日の翌朝に全員で見たところ、前向きな良い振り返りができた。
- ・学んだことを他学年及び同学年に発信する活動を行うことで、自分の考えに深まりが出るので、事後指導に重点を置く指導を心がけている。今年度は、小学生に対して発信する活動も実施する。
- ・何から何まで事務局にお世話になり、大変助かった。この方法は、学校としてはすごくありがたいので続けてほしい。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- ・この職業に就きたいという思いで体験に来てくれた生徒もいて、とても積極的だった。
- ・礼儀がよく好感を持てた。社会的であり、職員とのコミュニケーションも良好だった。